



交流のシンボルは 北欧の風と共にやって来る

ベッテイル ダニエルス(Bertil Daniels)さん (写真右)
アーネ ブラーサル(Arne Brasar)さん
(スウェーデン レクサンド市)

当別町とスウェーデンレクサンド市の交流が始まってから来年で20周年を迎えます。今後も交流を未来につなげて行くため、駅前の赤れんが倉庫に設置されるパン釜が2つのまちの交流の象徴となります。

交流の礎が かたちになるまで

スウェーデン王国の首都ストックホルムから北西に約250kmにある、姉妹都市レクサンド市からダニエルスさんとブラーサルさんの二人が当別にパン釜造りに訪れました。

ダニエルスさんが当別と関わるようになったのは、20年前に当別町とレクサンド市とが交流を始めた時の市長として、姉妹都市の調印を行ったとき以来です。

永年の夢である、当別に伝統的なパン釜を造りたいという想いの実現のため、町一番の腕利きのれんが職人のブラーサルさんとの来町になりました。

当別とレクサンドでお互いの町を

訪問する住民同士の交流が進み、スウェーデンの短い夏と太陽の恵みに感謝する伝統行事の夏至祭は町のイベントとして定着しました。

そして、ダニエルスさんがずっと温めていた「当別にパン釜を」という想いは、交流の新たな象徴としてのれんが倉庫へのパン釜設置という形で実現しました。

れんが倉庫のパン釜が 2つのまちの掛け橋に

12月6日から20日の間、スウェーデンヒルズに滞在してレクサンドから取り寄せたレンガを使った釜が造られました。

パン釜を当別に持って来ることになったことについて二人の想いを尋

ねたところ、「スウェーデン伝統のパン釜を当別のまちに作ることがずっと夢だった。それがかなうのが本当に嬉しいです。」とダニエルスさんは笑顔で話し、ブラーサさんは「私の作ったパン釜で焼いたものを町の人たちが気に入って食べてくれるといいですね。」と職人風な物静かな語り口で答えてくれました。

まちの賑わい創出のため、れんが倉庫は4月にオープン予定です。多くのイベントなどで二人が作った釜で焼いたパン食べる機会はずぐにやって来ることでしょう。「雪が溶ける頃、2人のパン職人が当別を訪れます。とても多くの経験と知識を持った人なので、必ずおいしいパンを焼いてくれますよ。」ダニエルスさんはそう約束してくれました。

人の動き 12月1日現在

()は前月との比較

人口	19,686 人	(25人減)
世帯	7,815 世帯	(2世帯増)
男	9,635 人	(1人減)
女	10,051 人	(24人減)

12月号の世帯比較(23世帯減)は(23世帯増)の誤りでした、訂正してお詫び致します。



今月の表紙

新年あけましておめでとうございます。2007年新年号は、防火年賀状作成の1コマです。(記事14ページ)これからは、厳しい雪に包まれる季節になります。

子供たちの手作りのメッセージは、お年寄りを元気づけることでしょう。